

株式会社 いなみの里梅園

ものづくり技術

小袋専用包装機の導入により 大幅な生産性UP、品質の向上を実現

事業内容 梅の二次加工品の製造、販売を手掛ける 企画力で市場を刺激し、新ニーズを開拓

元々は自家梅園を所有し、梅の一次加工（塩漬）を行っていた現代表取締役の藁科秀一氏が、梅の二次加工（調味加工）を目的に同社を設立、20年あまりの業歴を有する。

紀州産の南高梅にこだわり、原料梅は自家農園と契約農家の梅干のみを使用。それを自社工場で塩抜き、調味加工し、包装・梱包後に出荷している。商品は、食品卸売業者経由で、関東・関西を中心とする大手百貨店に流通しているほか、一般の個人客向けに通信販売されている。

同社では、サンリオとのコラボレーションで「ハローキ

ティ」の刻印を施した梅干しを市場に投入し、手応えが得られたことから、続いて刻印技術を応用した「スノービー」や「リラックマ」などの刻印のある梅干しを発売した。キャラクターの刻印で関心を引き、新たな客層を開拓していく狙いである。また、桃の果汁を使用したデザート感覚の「桃風味梅干し」も開発、製品化し、得意先から好評を得ており、同商品の拡販も目指していく予定だ。

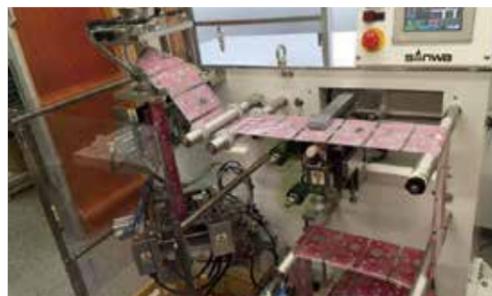
このように他者に先駆け、オリジナル商品を企画・販売できることも同社の長特であり、強みである。

補助事業 小袋専用の包装機を導入 生産性の向上を図る

これまで同社では、梅干しの個別包装を手作業で行っていたが、時間がかかることに加え、不良品（皮破れ）などが発生していた。従業員の負担を減らし、売上を増加させるためには、個別包装の自動化が必要であった。

また、新たな販路を拡大していくためには、新たな顧客層を掘り起こしていく必要がある。近年、若年層を中心に梅干し離れは進んでおり、その若年層に商品を手にしてもらうには単品での個別包装された商品の販売が向いている。今後、販売を拡大していきたいと考えている商品も高級感がある梅干しであることから、いずれにしても梅干しの個別包装を機械化していくことは同社の重要課題であった。

そこで、今回の補助事業では、小袋専用包装機を導入することにより、個別包装の機械化を図り、品質の安定化を目指した。



▲導入された小袋専用包装機

株式会社 いなみの里梅園

代表取締役 藁科 秀一
〒649-1528 和歌山県日高郡印南町西ノ地1529
TEL: 0738-43-1511 FAX: 0738-43-1512
URL: http://inaminosato-baien.co.jp

〈業種〉梅干し製造
〈設立〉1998年7月
〈資本金〉10,000千円
〈従業員〉4人(常勤社員)

成果

生産能力が大幅に向上 時間の創出にも成功

小袋専用包装機を導入後、しばらくは微調整が上手くいかず、安定した個別包装ができるまで何度もメーカー担当者と調整を行った。その後は、専務・製造部門担当者が主導し、本格稼働に至っている。

導入後の具体的な成果としては、3名の従業員が手作業で約1時間に約300個の小袋包装作業を行っていたものが、現在は1名の従業員で1時間あたり約1000個の小袋包装ができるようになった。生産能力が約10倍に向上したことにより、短納期化を実現することができ、得意先の要望に迅速に応えられるようになった。

加えて、手作業による個別包装が無くなったことで、従業員を他の作業に振り向けられる時間が増加。この時間を製

品の品質管理の強化、新商品開発および販路拡大のための営業活動に当てることができるようになり、今後の事業進捗が期待される。



▲小袋包装作業の様子

今後の展開

販路拡大には課題 新分野への積極的な挑戦

個包装機を導入し機械化を図ったことによって不良品比率は15%から3%以下に減少し、コスト面での改善につながり、商品競争力が高まっている。一方で販路の新規開拓に関しては、まだまだ課題を残している。

課題克服のために、市場からの反応が良い「桃風味梅干し」の販売に重点を置いて営業活動を進めていくのと同時に、新商品の開発も並行して行い、展示会や商談会などで自社商品をアピールしていく予定である。今期に入ってから、西日本の主要駅のキヨスクなどで「桃風味梅干し」が

新たに採用されるなど一定の成果もあがっており、今後の販路拡大が期待される状況にある。

その他では、和洋菓子の製造会社とのコラボレーションに向けた打ち合わせも続いており、今年度の事業化を進めていく方針である。

自社での商品開発を続けるとともに、既存の得意先の枠にとらわれない新分野への積極的な展開を進めていく。同社の梅製品が新たな顧客層を創り出し、梅市場の活性化につながることを期待したい。



▲調味漬けされた梅干し



▲新商品「桃風味梅干し」